



△注意 モデル表面に印刷物などが直接触れないよう
にしてください。
樹脂表面にインクが吸収されて消えなくなります。

MW21B

NCPRモデル PLUS II



目 次

●はじめに	
製品の特長とご使用上の注意	P.1
●ご使用の前に	
セット内容	P.2
●実習の準備	P.3～P.5
●実習	
実習中の注意事項	P.6～P.9
1. 体位の設定・大泉門の確認	
2. 静脈注射・中心静脈カテーテル挿入	
3. 脣帶処置・ケア	
4. 経管栄養(経口・経鼻)	
5. 吸引(口腔・鼻腔)	
6. 胸骨圧迫	
7. 気道管理	
●後片付け	P.10～P.11



動画サイト



日本語サイト



株式
会社 京都科学

<https://youtu.be/ockhzfiUMQ4>

はじめに

このたびは、当社の「NCPR モデル PLUS」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品は、同機種の NCPR モデルに PI カテーテルのトレーニングをプラスしたモデルで、新生児の集中治療室などの心肺蘇生や新生児に対する様々な処置のトレーニングに最適なモデルです。医学・看護教育の実習教材としてご使用ください。

本来の使用目的以外にはご使用にならないでください。また、取扱説明書に記載された方法以外でのご使用による万一の破損や事故に関して、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

特 長

- 皮膚やボディは柔らかく、肋骨、気管支、肺、食道、胃、臍帯や血管を備えた全身モデルです。
- 胸骨圧迫や挿管、バッグマスク法、挿管確認など様々な心肺蘇生トレーニングに対応しています。
- 腕や脚から、3種類の方法で静脈穿刺・カテーテル挿入のトレーニングが行えます。
- 臍帯部はリアルな構造で、静脈ルートの確保から採血まで、一連の手技の流れを実習できます。
- 経管栄養の実習では、挿入したチューブが胃へ到達したことを確認できます。

⚠ 注意

● 取り扱いにご注意ください。

軟質・硬質樹脂を使用していますので、落下や強い衝撃を与えると破損の原因となります。また各部品の脱着の際、無理な負荷がかかりますと破損しますので十分ご注意ください。

● 中性洗剤又はアルコールで拭き取ってください。

モデルの汚れは水又は中性洗剤で、汚れが落ちにくい場合はアルコールで拭き、ベビーパウダーを塗布しておいてください。シンナーなどの有機溶剤は、絶対に使用しないでください。

● 印刷物をモデル表面におかないでください。

モデル表面に印刷物などが直接触れないようしてください。樹脂にインクが吸収されて消えなくなります。

● ボールペンやサインペンで書き込まないでください。

サインペン、ボールペンなどでモデルに書き込むと、インクが吸収されて消えなくなります。

● 高温多湿を避けて保管してください。

使用後は、高温多湿や直射日光のあたる場所での保管は避けてください。変形や故障の原因となります。

● 表面が変色する場合があります。

長期間使用されない場合や経年変化で変色することがありますが、ご使用には差し支えありません。

セット内容

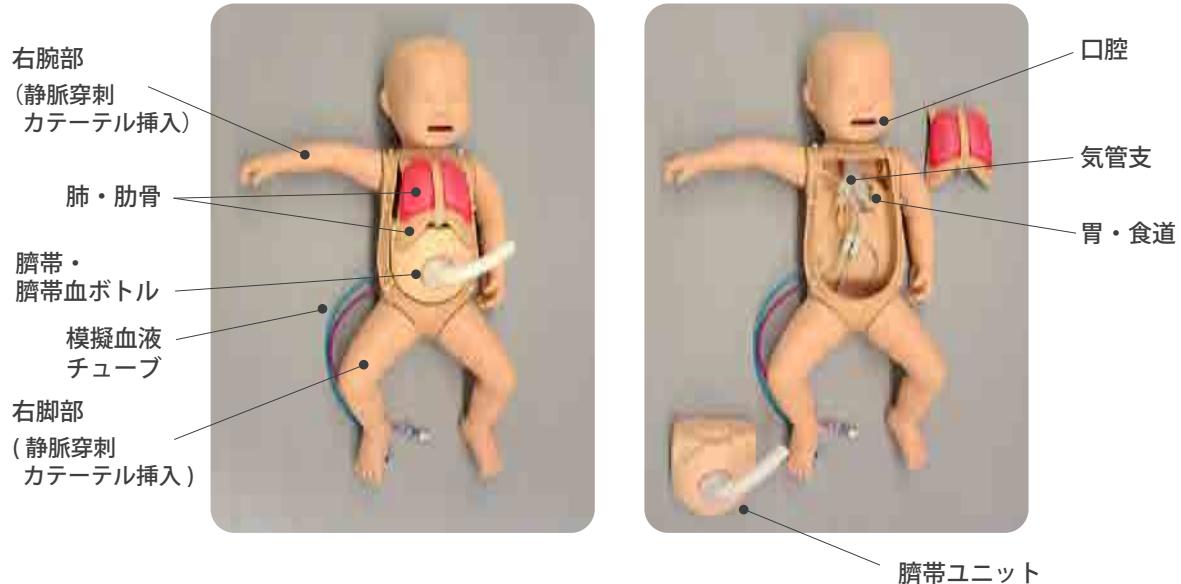
ご使用の前に、構成品が全てそろっているかご確認ください。



- a 新生児モデル 1点
- b 模擬血液チューブ(赤) 1点
- c 模擬血液チューブ(青) 1点
- d 模擬血液(綿棒タイプ) 10本入

- e シリンジ 1点
- f トレーニングモデル用潤滑剤 1点
- g ディスパカップ 1点
- h 静脈チューブ (右手用28cm・右脚用32cm) 1点

構成



準 備

1 模擬血液の作成

付属のディスポカップに1L程度の水を入れ、綿棒タイプの模擬血液を水の中で良くかき混ぜて模擬血液を作成します。模擬血液をシリンジに模擬血液を充填します。



⚠ 注意

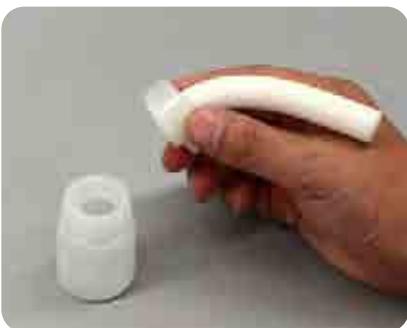
模擬血液は衣服などについたりすると、シミになって取れなくなる場合がありますので十分にご注意ください。

2 脇帯血の準備

1. 胸腹部の皮膚を取り外します。(皮膚はモデル本体と6箇所のピンで固定されています)



2. 脇帯ユニットから脇帯部(脇帯及び脇帯血ボトル)を取り出し、ボトルの蓋(脇帯付)をはずしてシリンジ内の模擬血液をボトルに充填します。改めて蓋を取り付け、脇帯ユニットにセットします。

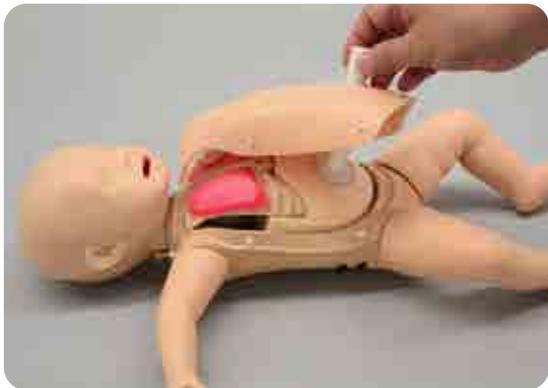


準 備

2

臍帶血の準備

3. 肺・肋骨部を少し浮かせて臍帯ユニットをモデル本体の腹部にセットし、その上に肺・肋骨部をかぶせます。胸腹部の皮膚の取り付けは、まず皮膚の穴に臍帯を通してから、皮膚の周囲にある6箇所の穴をモデル本体の6箇所のピンに差し込み皮膚を固定します。



3

静脈チューブの取り付け

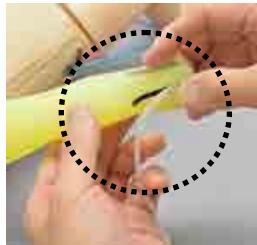
右脚内の静脈チューブの取り付け

1. 右脚の皮膚を太腿側から取り外します。
2. 大腿部の片側の孔にコネクターを差込み、脚の内型の溝にチューブを添わせながら足裏をまわします。
3. 大腿部のもう一方の孔にコネクターを差し込みます。コネクターは奥までしっかりと差し込みます。
4. 静脈チューブの取り付け後、脚の皮膚を被せます。被せにくい場合はお手持ちのタルカムパウダーを脚全体と皮膚内側に塗布してください。



右腕内の静脈チューブの取り付け

1. 右腕の皮膚を取り外します。
2. 肩の片側の孔にコネクターを差込み、腕の内型の溝にチューブを添わせながら手先をまわします。
3. 肩のもう一方の孔にコネクターを差し込みます。コネクターは奥までしっかりと差し込みます。
4. 静脈チューブの取り付け後、腕の皮膚を被せます。被せにくい場合はお手持ちのタルカムパウダーを脚全体と皮膚内側に塗布してください。



準備

4 模擬血液チューブの取り付け

- 付属の2本の模擬血液チューブをモデル本体に取り付けます。モデル右腹部にある腕側のコネクターに青の模擬血液チューブを差し込み、脚側のコネクターに赤の模擬血液チューブを差し込みます。



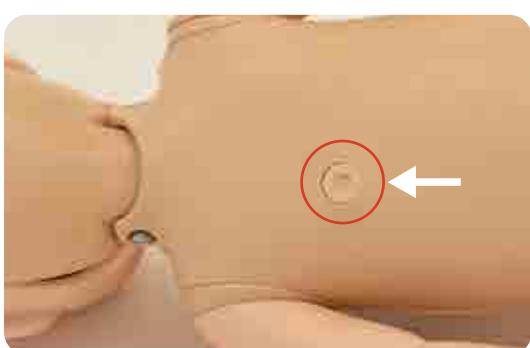
5 模擬血液の充填

- 模擬血液を入れたシリンジを赤の模擬血液チューブ先端のコネクターに接続し、青の模擬血液チューブ先端のコックを開けます。青いチューブの先端をディスポカップ内に入れて、シリンジ内の模擬血液をモデル本体内に注入し、青いチューブの先端から模擬血液があふれるまで充填します。模擬血液がモデル内に充填できたら、コックを閉め、シリンジを取り外します。



6 胃液（水）の充填

- 水を入れたシリンジをモデル本体背面にある注入口に差し込み、胃液（水）を注入します。
※水の注入量はおよそ5mLです。注入後シリンジを取り外します。



1 体位の設定・大泉門の確認

体位保持、変換をトレーニングできます。



大泉門の確認が可能です。



2 静脈注射・中心静脈カテーテル挿入

● ブラインド法

静脈穿刺からカテーテル挿入までの手順を
トレーニング



● トランスイルミネータ透照下法

トランスイルミネータを用いた透照下穿刺を
トレーニング



※ライトトーン、ミディアムトーンのみ実習可能



静脈注射を実習の場合は23~27Gの注射針を使用してください。

カテーテルは28Gのカテーテルを使用してください。

挿入前にはカテーテルに付属のトレーニングモデル用潤滑剤を吹き付けてください。

このモデルは逆血を確認することはできません。



実習

臍帯処置・ケア 経管栄養(経口・経鼻)

3 臍帯処置・ケア



静脈ルートの確保から採血まで、臍帯静脈よりのカテーテル挿入法の手順をトレーニングできます。

- 臍帯切断
- クリップや糸での結紮
- カテーテル挿入
- 固定



臍帯には静脈と動脈を表現しています。



カテーテルは16G・30cmを使用してください。

実習の前にはカテーテルに付属のトレーニングモデル用潤滑剤を吹き付けてください。

4 経管栄養(経口・経鼻)



経鼻、経口よりの経管栄養のトレーニングが可能です。

- ドレッシング材でのカテーテル固定
- 気泡音で胃へのチューブ到達確認



実習の前に、チューブや鼻腔口腔内に、付属のトレーニングモデル用潤滑剤を吹き付けてください。



経管栄養チューブは5Frを使用してください。

実 習

吸引(鼻腔・口腔) 胸骨圧迫

5 吸引(鼻腔・口腔)

鼻腔、口腔よりの吸引の手順をトレーニングできます。



実習の前に、カテーテルや鼻腔口腔内に、付属のトレーニングモデル用潤滑剤を吹き付けてください。



注意 カテーテルは5Frを使用してください。

6 胸骨圧迫

胸骨圧迫のトレーニングが可能です。



7 気道管理

喉頭鏡を用いた挿管手技の手順をトレーニングできます。

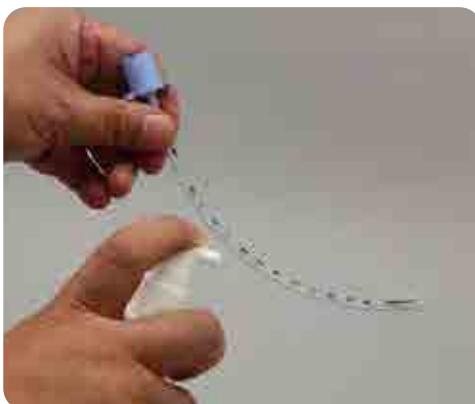
- ・バッグバルブマスク法
- ・食道挿管や両肺・片肺挿管の確認

※胸部の上下を確認できます。



挿管準備

実習の前に、口腔内や挿管器具に付属のトレーニングモデル用潤滑剤を吹き付けてください。



注意

気管チューブは2.0~3.0mmを
喉頭鏡のブレードサイズはNo.0
を使用してください。



後片付け

模擬血液・臍帶血・胃液の排出 潤滑剤の拭き取り、マスクの交換

1 臍帶血・胃液の排出



2. 臍帶血の排出は、P.3 の手順を参考して臍帶ユニットをモデル本体より取り出し、臍帶血ボトル内の臍帶血を排出します。排出後ボトルをきれいに洗って乾かしてください。



1. 実習後はモデル本体内の模擬血液を抜き取ります。空のシリンジを赤い模擬血液チューブのコネクターに接続し、青いチューブの先端のコックを開けてからシリンジの内筒を引いて模擬血液を抜き取ります。
※この作業はチューブ内の模擬血液が無くなるまで続けてください。

3. 胃液の排出は、空のシリンジをモデル本体背面の注入口に差し込み、シリンジを引いて胃液（水）を抜き取ります。
排出後、シリンジを取り外します。



2 潤滑剤の拭き取り

実習後は、モデルの表面や気管チューブに塗布した潤滑剤を拭き取って保管してください。
誤って口腔内等に潤滑剤を大量に使用した場合には、綿棒等を使用して丁寧に拭き取ってください。



大量に潤滑剤を使用し放置されると、潤滑剤が内部で乾燥・凝固する可能性があります。

3 マスクの交換

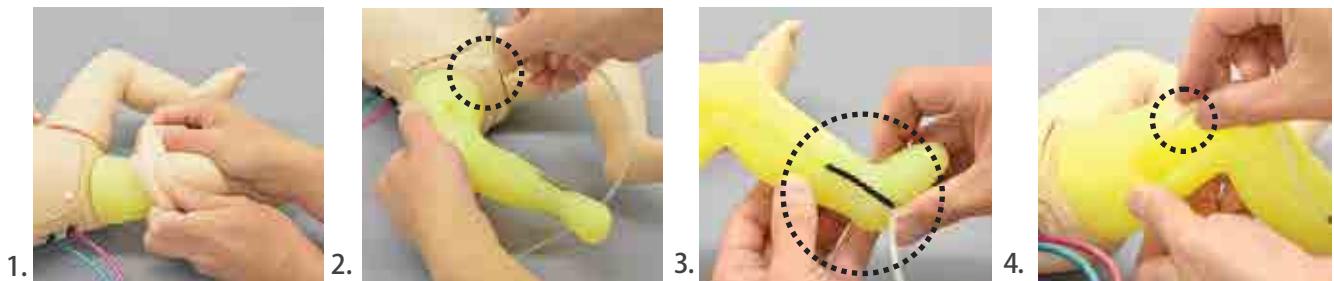


1. マスクを取り外す場合はマスクの後頭部側を持ち上げマスクをはずします。
2. マスクの取り付けはマスクの後頭部側を頭部の形状に合わせ、頭部にマスクをかぶせます。
3. 胸腹部の皮膚の交換はP.3、P.5を参照して行ってください。

5 静脈チューブの交換

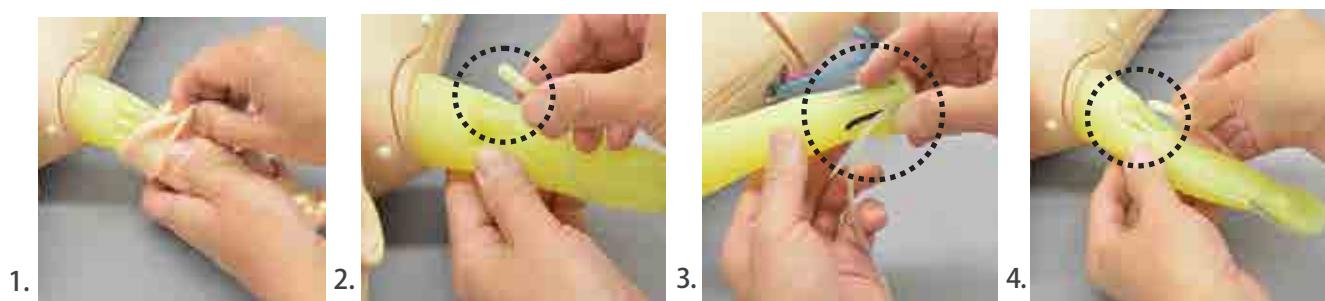
右脚内の静脈チューブの交換

1. 右脚の皮膚を太腿側から取り外します。
2. 大腿部に差し込まれているコネクターをつまんで静脈チューブを脚の内型からとりはずします。2個所とも同様に抜き取ります。
3. 新しい静脈チューブを取り付けるときは大腿部の片側の孔にコネクターを差込み、脚の内型の溝にチューブを添わせながら足裏をまわします。
4. 大腿部のもう一方の孔にコネクターを差し込みます。コネクターは奥までしっかりと差し込みます。
5. 静脈チューブの取り付け後、脚の皮膚を被せます。



右腕内の静脈チューブの交換

1. 右腕の皮膚を取り外します。
2. 肩に差し込まれているコネクターをつまんで静脈チューブを腕の内型からとりはずします。2個所とも同様に抜き取ります。
3. 新しい静脈チューブを取り付けるときは肩の片側の孔にコネクターを差込み、腕の内型の溝にチューブを添わせながら手先をまわします。
4. 肩のもう一方の孔にコネクターを差し込みます。コネクターは奥までしっかりと差し込みます。
5. 静脈チューブの取り付け後、腕の皮膚を被せます。



ご使用後は必ず静脈チューブを取り外して保管してください。
腕に取り付けたまま保管すると、静脈チューブが変形し使用できなくなる恐れがあります。

⚠ 注意

モデル表面に印刷物などが直接触れないようにしてください。
樹脂表面にインクが吸収されて消えなくなります。

交換部品

コード番号	部品名
11400-010	マスク
11400-020	胸腹部皮膚
11400-040	右腕皮膚
11400-050	右脚皮膚
11400-030	臍帶(4本組)
コード番号	部品名
11400-080	腹部
11400-310	右腕用静脈チューブ(4本組)
11400-320	右脚用静脈チューブ(4本組)
11229-050	トレーニングモデル用潤滑剤
11388-400	模擬血液(綿棒タイプ:10本入)



マスク



胸腹部皮膚



右腕皮膚



右脚皮膚



臍帶 (4本組)



腹部



右腕用静脈チューブ



右脚用静脈チューブ



トレーニングモデル用潤滑剤



模擬血液(綿棒タイプ: 10本入)

・ご不明な点は、お買い上げの販売店、もしくは下記 (株)京都科学まで御連絡ください。



URL ● <http://www.kyotokagaku.com>
e-mail ● rw-kyoto@kyotokagaku.co.jp

■ 本社・工場

〒612-8388 京都市伏見区北寝小屋町15番地
TEL : 075-605-2510 (直通)
FAX : 075-605-2519

■ 東京支店

〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目26番6号
NREG本郷三丁目ビル2階
TEL : 03-3817-8071 (直通)
FAX : 03-3817-8075

2025.08